

中学2年・実技教科・美術科、校内学習

「写真に人物を描きこむことで、考察する人体のスケール感」

中華人民共和国・蘇州日本人学校

前提

学校環境

- » すでに導入されている iPad を児童生徒や教職員がより積極的に使用する目的で Apple Pencil を導入

※ Apple Pencil の利点は物理空間で描いたり消したりする行為がデジタル化できることである。

例えば、確認プリントを写真などで提出した際、児童生徒は授業のメモを Apple Pencil で書き込み iPad に書き留めることができ、教職員はそこに直接採点を書き込んだりすることができるので利便性の大幅な向上に期待が持てる。

Apple Pencil などのデバイスを普段から積極的に活用することで、授業に ICT 活用を前提とした視点が加わり、従来通りの授業の枠を超え、オンラインで授業を受けている児童生徒にも寄り添った授業の工夫へつながる。

課題と目標

<目標>

- » 人物のドローイングをすることで、描画の基礎技術の習得をする。(知識、技能)
- » iPad で撮影した写真に Apple Pencil で人物のドローイングを描きこむことで作品の中に仮想的に入り込み人体のスケール感覚に気づくことで、作品鑑賞の新たな側面を見出す。(思考力、判断力、表現力等)
- » 前単元で「家」をテーマに制作した立体作品を iPad で撮影することで、自分や他者の作品の良さや面白さに気づく。(学びに向かう力、人間性等)

※ テーマに応じた図や写真を用意しておくことや、Apple Pencil、イラストアプリの使い方、ポージング模型を描写し人間の体の構造を理解するなどの準備も必要となる。

2 実践の内容

活用した ICT ツール

ICT 機器	iPad (1人1台)、Apple Pencil (1人1本)、大型液晶ディスプレイ
ネットワーク	校内 Wi-Fi
使用アプリ	Autodesk SketchBook (現在提供終了)、ロイロノート・スクール
その他	iPad のスクリーンにはペーパーライク保護フィルムを使用

具体的な活用方法

1. Apple Pencil・イラストアプリの使い方を学ぶ。※図1
2. 棒人間で「はしる」「すわる」などのポーズを表す。
3. ポージング模型を描写し、人間の体の構造を理解する。



図1

4. インスタレーションの要素を理解するとともに、単元の大きな目的を確認し、制作の動機付けを行う。

5. iPad を使用して作品撮影 ※図2

作品の今後の工程を創造しながら、表現したいことに合わせた構図を考えながら、インスタレーション作品の写真を撮影する。



図2

6. 撮影された写真上に Apple Pencil を使用し人体を描画する。 ※図3～図5



図3

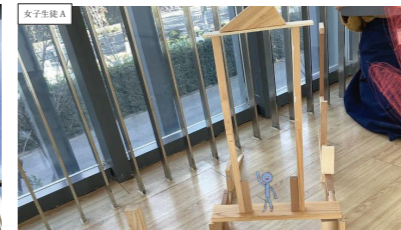


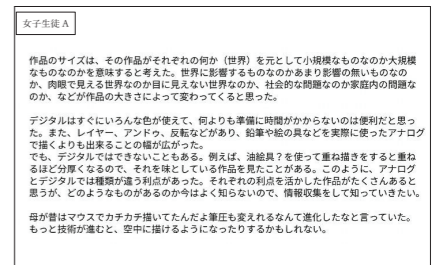
図4



図5

7. 描画された写真をもとに、インスタレーション体験についてロイロノートを使用し自分の考えをまとめ、他の人と意見を交換することで、自分や他の人の作品について味わう。 ※図6

図6



3 成果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

Apple Pencil の導入を経て大きく良かったことは以下の2点であった。

- ① 資料などに手書き(手描き)を加えられるので、メモや図解が容易になる。
- ② 美術科など実技を伴う授業では、ICT 機器を使った新たな教材を開発できる。

この2つは導入前から予想されていたことであるが、特に美術科では描く楽しさや描画力の向上などの手ごたえを児童生徒は得たようだ。しかし、iPad の画面は摩擦が少ないので対策としてペーパーライク保護フィルムを導入したが、筆記・描画習熟度の低い小学生では筆圧コントロールが上手くいかないことも分かった。そういった児童生徒に対しては描いて楽しむ程度から始めてみて慣れさせていくことも大切である。

児童生徒、教師、保護者の反応

アンケートにより、学習効果や、さらなる活用が期待できるものだと分かった。※図7、図8
高学年になるにつれ Apple Pencil を自ら活用していく傾向もある。

Apple Pencil アンケート結果

	低学年	中学年	高学年	中学部	その他	合計
よく使う	1	2	3	3	0	9
たまに使う	4	4	1	1	2	12
あまり使わない	1	0	1	1	0	3
全く使わない	1	0	0	0	0	1
合計	7	6	5	5	2	25

図7

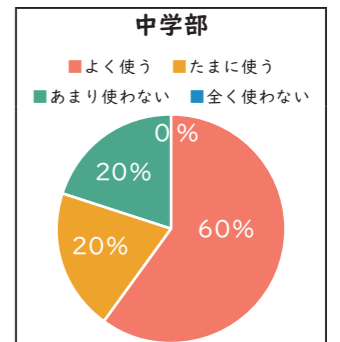


図8